

このページは、小・中学生に向けて梅光学院大学子ども学部子ども未来学科(地域共生ゼミ)の学生が作っています。

# しものせき キッズページ



## 「長府の歴史」



▲長府庭園内の大正時代の屋敷。歴史と豊かな自然が情緒豊かな雰囲気を作り出します。

城下町長府には、侍が住んでいた武家屋敷や城跡、庭園など、歴史を感じられる名所が多くあります。そのいくつかを紹介しましょう。

### 歴史と季節を味わう 長府庭園

長府庭園(長府侍町)は、長府藩の武士・西運長の屋敷跡などを整備し、1993年に開園しました。幕末の政治が不安定だった頃、藩政の中心人物であった西運長は藩主を助け、その生前の活躍に対し、高い名誉が与えられました。



小高い山を背にした約3万1000平方メートルの敷地には、池を中心に、書院や茶室、庭からの景色が楽しめるあずまやが残され、かつての静かな佇まいが今日まで保たれています。園内には孫文蓮、桜、松、ツツジ、キンモクセイ、モミジ、シヨウブなどがあり、一年を通して四季折々の庭園の美しさを見て歩き回ることが出来る庭園です。

このような歴史のある長府庭園は、情緒あふれる落ち着いた雰囲気です。



▲中国との縁がある孫文蓮。7月中旬～8月、白地に淡いピンクの花を咲かせます。

### 櫛崎城の歴史



櫛崎城は、大内氏の家臣であり武將の内藤隆春が居城していたものを、慶長7(1602)年、長府藩の初代藩主・毛利秀元が再建して入城したものです。初め、その辺りの地名から雄山城、「串」崎城としていましたが、後に「櫛」崎城と改められました。この城は海にそばにあり、関門海峡を一望できるため、海から迫ってくる敵をいち早く発見することができました。江戸時代、長府には武家屋敷が立ち並ぶようになり、城下町として発展していきました。

元和元(1615)年の一国一城令により、幕府によって城は壊され、今は城の姿を見ることはできませんが、天守閣の土台は復元され、関見台公園で見ることが出来ます。どのような天守閣が建てられていたのか想像するのも楽しいことです。

### 戦国時代から支え 続けている石垣



櫛崎城には、松崎口・浜之坂口・三軒屋口という城の入り口となる門がありました。松崎口近くの石垣は、城が壊されてから約500年間、きれいな状態で残っています。この石垣は、大きな石を運んで積んでいき、隙間に小さな石を入れて造られています。長さは関見台公園の駐車場の近くまであり、かなり大きな規模であったことが分かります。古城ファンにとっては隠れた名所といえるでしょう。

### 長府庭園

開園時間 午前9時～午後5時  
入園料 大人200円、小中学生100円  
長府庭園のイベント案内を6ページに掲載しています。



7月号の編集記者・イラスト(左から)西田智則さん、元村慎吾さん、武下佑介さん



▲関門医療センターから見た櫛崎城石垣。平成7年度に復元されました。



▲関見台公園では、昔のまま残っている石垣を見ることができます。